



佐野 豊 名誉教授 略歴

- | | |
|-----------------------------|---|
| 大正15年4月18日生 神戸市 | |
| 昭和25年3月 京都府立医科大学卒業 | |
| 昭和26年4月 京都府立医科大学 解剖学教室 助手 | |
| 昭和26年9月 医師免許証 | |
| 昭和29年6月 医学博士 | |
| 昭和29年7月 京都府立医科大学 講師 | |
| 昭和31年4月 京都府立医科大学 助教授 | |
| 昭和32年3月～昭和33年11月 | |
| ドイツ連邦共和国キール大学留学 | |
| 昭和36年6月 京都府立医科大学 第一解剖学教室 教授 | |
| 昭和37年2月 理学博士（京都大学） | |
| 昭和43年4月～昭和44年7月 | |
| 京都府立医科大学 学生部長 | |
| 昭和48年4月～昭和54年3月 | |
| 京都府立医科大学 学長 | |
| 昭和55年9月～昭和55年12月 | |
| ドイツ連邦共和国ビュルツブルグ大学 学客員教授 | |
| 昭和57年4月～昭和63年7月 | |
| 京都府立医科大学 学長 | |
| 平成2年4月 京都府立医科大学 名誉教授 | |
| 平成2年12月 キール大学名誉医学博士 | |
| | 平成2年4月～平成5年1月 |
| | 財団法人関西労働保健協会理事長 |
| | 平成4年12月～平成7年12月 |
| | 京都市教育委員会委員長 |
| | 平成5年4月 新潟大学非常勤講師 |
| | 平成13年4月～平成19年3月 |
| | 京都中央看護専門学校長 |
| | 平成14年6月～平成16年5月 |
| | 京都府職員研修所長 |
| | 平成16年4月～平成18年3月 |
| | 京都府特別参与 |
| | 平成4年4月～平成23年3月 |
| | 京都市医療施設審議会委員長 |
| | 令和5年7月23日 逝去 享年97歳 |
| | 受賞・叙勲 |
| | 平成10年1月 第16回京都市文化賞特別功労賞 |
| | 平成10年11月 文部大臣表彰（教育委員会制度50周年記念地方教育行政功労者） |
| | 平成10年10月 第51回京都市教育功労者表彰 |
| | 平成13年10月 勲二等瑞宝章 |
| | 平成18年6月 京都府開庁記念 特別感謝状 |
| | 平成19年11月 京都新聞大賞文化学術賞 |
| | 平成20年10月 京都市自治100周年記念市政功労者特別表彰 |

佐野豊名誉教授を偲んで

京都府立医科大学名誉教授 佐野豊先生が令和5年7月23日、呼吸不全のため永眠されました。享年97歳でした。先生のご逝去に際し、生体構造科学（旧第一解剖学）教室同門会を代表して謹んで哀悼の意を表します。

佐野先生は大正15年に兵庫県神戸市で誕生されました。ご実家は病院を経営されており、お兄様の佐野勇先生はパーキンソン病で線条体のドパミンが減少することを初めて報告されるなど、大阪大学医学部高次神経研究施設教授として世界的にご活躍されました。先生は昭和22年に京都府立医科大学に入学され、学生時代から解剖学教室に出入りされて、「日本人の脳髓」を出版された島田吉三郎名誉教授のご指導のもと、終神経の研究で昭和23年に第53回日本解剖学会総会で発表され、翌年には「生体の科学」に論文が掲載されました。昭和25年に本学をご卒業後、1年間のインターンを経て、昭和26年に視床下部下垂体系の組織学がご専門の、野田秀俊教授主宰の第一解剖学教室の助手になられ、昭和29年6月には下垂体格子線維の論文で医学博士を授与されました。同年7月には講師に、昭和31年には助教授に昇進され、昭和32年から1年9カ月ドイツ連邦共和国キール大学へ留学されました。帰国されてまもなく、昭和35年に野田教授が回盲部癌のため病没され、昭和36年教授にご就任されました。その後神経内分泌学に加えてカテコラミン、セロトニンの研究を展開され、教授在職中に発表された論文は400編に及び、名著「組織学研究方法」や「神経解剖学」をはじめ多くの成書を執筆され、教室からは全国で活躍する解剖学教授を多数輩出されました。

大学運営については学生部長として大学紛争の前面に立たれて対応に当たられたのち、昭和48年から昭和54年、さらに昭和57年から昭和63年まで計4期12年に渡って学長をお務めになりました。在職中に様々な大学整備拡充にもご尽力され、本学附属病院改築をはじめ、立命館大学跡地を購入されて、広小路キャンパスに附属図書館、附属看護学舎の新設移転を決定され

るなど、現在の本学キャンパスの基本設計に主導的役割を果たされました。平成2年にご退官されてからも、略歴に記載されているように京都府、京都市をはじめ多くの機関の長を歴任されています。

学生教育にも熱心に取り組み、深い学識に裏打ちされた、明解な講義は多くの学生の心に刻まれ、名講義として語り伝えられています。私は信州大学医学部を卒業したので、残念ながら学生時代に先生の聲咳に接することはできませんでしたが、平成26年に直接お話を伺う機会を得ました。スウェーデンカロリンスカ研究所のTomas Hökfelt博士が来日され、本学で大学院特別講義をお願いした際に、井端泰彦名誉教授と共に4人でホテルの喫茶室で会談し、その時先生が流暢なドイツ語で旧知のHökfelt先生と楽しそうに談笑されていたお姿が印象的でした。平成28年に生体構造科学教授になってからは、銀閣寺のご自宅に何度かお邪魔して、食事をご一緒させて頂き、お話を拝聴しました。ご高齢になっても矍鑠とされて、クラシック音楽やお酒を楽しまれ、現役時代はよく学生たちをご自宅に招いて酒を酌み交わしながら交流されたとお話が納得されます。

昭和51年卒の土橋康成先生が青蓮会報第174号に「卒後40年を経て噛みしめた はなむけの言葉」と題して寄稿され、当時学長として佐野先生が卒業生に送られた祝辞の、慈愛に満ちた格調高いお言葉を、様々な経験を経た今となってよくよく感じ取り、理解することができたと言われているのを読み感銘を受けたのを覚えています。このように、卒後何年も学生に記憶され、慕われる存在であるという事実は、先生がいかに教育者としても偉大であったかを物語っていると思われまふ。佐野先生、どうぞ安らかに眠りください。今度は天から京都府立医科大学をお見守りください。ご冥福をお祈り申し上げます。

京都府立医科大学 解剖学教室
生体構造科学部門 田中雅樹